

申1号 JR東労組新幹線協議会「第7回定期委員会」発言等に基づく申し入れ交渉 その4

(その3から続き)

- 《組合》 UZ編成のZ編成からはU編成の後方はほとんど見えない。ホームには駅長がいるわけだが、主編成、付属編成、駅長3人の目で見ただけの方がより安全であり、車掌としては優先すべきは運転扱いであるということの認識を改めて一致させたいがどうか。
- 《会社》 その部分について、乗務員指導という立場で考えれば揺らぐものではない。やはり命が第一であるとする。
- 《組合》 しかし状況において必ずしもそうならないことがあるということによいか。
- 《会社》 今回は併合編成といったこともあり、Z編成の車掌が安全確認をしているのでその部分の問題はないと考える。駅でも不備があったという考えはない。
- 《組合》 今回の現場判断について、良いか悪いかを言うつもりはない。ただ、基本的には我々としては安全第一であり、運転扱いが優先であることを主張させていただいた。もしこれが単独編成で車掌が1人であれば、状態注意を優先しなければいけないということになる。今回は併合編成だったので付属編成車掌だけが状態注意を行ったが、本来2人で行う状態注意を1人で行うことでリスクが高まることに対する認識はあるか。
- 《会社》 繰り返しになるが、多くの目で見ろべき、見れば見るほど安全であることに間違いはない。
- 《組合》 三島事故では本来2人で状態注意するところを1人の車掌が車内確認のため行えなかった。事故はそのような時に起こる。だからこそ我々は訴えている。そこを踏まえ教育としては運転扱いがまず優先だということを職場の中でしっかりと一致させるべきである。
- 《会社》 今回は例外的な扱いではあるが、これを慣例的にやるべきものだとは考えていない。状態注意の重要性や指導の仕方はなんら変わるものではないし、これまで通りしっかりと運転取扱い、状態注意、ドア扱いから定められた業務をしっかりと行うといったところに変わりはない。
- 《組合》 基本的なところの認識は一致することができたと思う。しかし現場の乗務員にしっかりと伝わっていないといけない。そこはお互いの課題として捉えるべきと考える。
- 《会社》 乗務員の指導の仕方はこれまでと同様、安全を第一にという考え方に変わりはない。今後についても乗務員の指導をしっかりとしていきたい。今回の担当乗務員が間違えた取り扱いをしたという認識はない。それは現場で働く社員が一生懸命対応した結果と、あとは付属編成の車掌とコミュニケーションを取り、連携を図って取り扱いをしたことについてはなんら誤ったものでもないと考えている。
- 《組合》 車掌の状態注意含めて、回答にもあったようにこれからも変わるものではない、現場判断が大事であるということを示していただいた。ぜひ、この部分についても現場とも共有しつつ、教育に活かしていただきたい。

過去の教訓、安全の観点から「今回の取り扱いは問題がないが、慣例でやるべきものではない」「車掌の状態注意は必要な業務の1つ」「安全が第一という考え方に変わりはない」という点で会社と認識の一致を図ることができました！